10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・秋口に比べ売上が落ち着いている。初売りやセールの影響もあるが、春物の動きがよく、月後半の売上が安定している。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・昨年末までの暖冬による冬物商品の買い控えの反動か、１月に入ってからセールの動きが好調である。前年を上回る実績で推移している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来客数は前年比97%程度であったが、売上高は100%を若干超えそうである。12月の売上高は同97%であったが、１月の初売り以降のクリアランスでは衣料品を中心に順調に推移したためである。また、プロパー商品についてもそれほどの落ち込みがなく、客単価、一品単価とも前年を上回っている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・気温が下がったため、冬物別途品を中心に好調となった。一方クリアランスの勢いは、スタート時期だけに終わっている。前年の市場環境の変化も一巡し、客数も増加の傾向にある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年に比べ、福袋が高額のものも含めかなり売れた。また気温も下がったため、久しぶりに肌着・防寒関係、婦人・紳士アウターを中心として購買点数も多くなっており、何か月ぶりかの売行きである。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・気温が低いためであるが、衣料品が好調である。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・冷え込んできたため、鍋物関連商材の動きが良く、購買点数、客単価が増加傾向にある。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・相変わらず客数が増加しているほか、客数の増加率には及ばないものの販売量も既存店レベルで高く、前年並みで推移している。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数が少しずつ多くなり、週末はショールームに活気が出てきた。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・三が日の販売から好調なスタートを切り、その勢いで平日も極端な販売台数の減はなく、週末も来店客数が多かった。人気商品は品切れ状態に近くなったほどである。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・初売りのときに少し来客数が伸びたが、その後は寒さも手伝って商店街の来街客数が少ないようである。
		商店街（代表者）	単価の動き	・天候が悪く、客の動きも悪かった。値引きしているため単価が安く、売上が伸びない。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・セール時期には久しぶりに売場もにぎわったが、客はまだ価格にシビアで、店頭の様子からは本来の勢いが感じられない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・期待した冬のクリアランスセールも、スタートは順調だったものの、勢いが続かなかった。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・初売り福袋は、夢のある高額商品の動きは良いが、家具、電化製品等いつでも買える商材は、値ごろ価格にもかかわらず購買が少ない。ただし初売り全体では買上単価は伸びている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・先月に続き前年実績はクリアできそうだが、様々な仕掛けをした上での実績クリアである。実質としてはほぼ実績並みである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・福袋の売上数量が年々減っている。
		百貨店（業務担当）	単価の動き	・冷え込みにより衣料品に動きがあったが、クリアランス時の割引価格を適正価格と感じている客が多い。客は価格に慎重になっている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客は商品を選ぶときに慎重になっているほか、買い控えもみられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客数の増加はあるが、客単価の伸びは今一歩である。競合店は、客数が伸びている様子がみられない。全体的に景気は横ばいである。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・年末年始は前年比110%程度で推移していたが、平日は厳しく、同95%くらいで推移している。衣料品は前月に比べ約10%は改善しているが、依然として冷え込んでいる。
	スーパー（店長）	単価の動き	・売り尽くしをやっており、客数は非常に大きく伸びているが、１人当たりの買上点数前年比88%と、ここ１年継続して下がっている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・特に高年齢のサラリーマンが、昼食を低単価商品で済ませる傾向が目立つ。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・三が日の売上は前年比95%程度であった。客数はあまり変わらなかったが、客単価が低下している。中旬から下旬にかけては売上の下降傾向が見られるが、今年は例年をはるかに下回っている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・１月４日以降の初売りの客足はよかったが、中旬からぱったり止まった。
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・正月からセールが始まり、客数も多く、まとめ買いも多くみられたため、前年より売上が上がった。しかし、その後は一気にセール熱が下がり、客単価が下がった。
	家電量販店（総務担当）	単価の動き	・デジタル家電は台数ベースでは好調だが、単価が下落しており、売上は横ばいに近い。
	乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・客数、販売量とも前年を上回るところまでいかず厳しい状況が続いている。自動車リサイクル法が１月から始まることから、12月に新車購入が発生したため、今月はその反動が少しあった。販売量は、台数は増えているが販売単価が下がり、売上全体としては前年並みである。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数は新入学生用の学童机の動きでまあまあであるが、ブライダル家具等の大物家具の動きは依然として厳しい。
	その他専門店［医薬品］（従業員）	お客様の様子	・風邪薬等の季節商品の動きが例年より悪い。今年は鼻炎薬が売れるだろうと言われているが、風邪薬の落ち込みを補うほどの動きではない。
	その他専門店［ガソリンスタンド］（統括）	販売量の動き	・月に消費するガソリン量は変わっていないものの、一度で満タンにしなくなっている。来客数はプラスだが、販売量は横ばいである。
	その他専門店［ガソリンスタンド］（統括）	販売量の動き	・本格的な寒さを迎え、暖房用の灯油等の販売が順調に伸びている。燃料油全般も、２月の元売値上げを控え、１月の値崩れも心配したほどではなかった。販売量は前年並みである。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年になって人の動きがあまりなく、来客の様子にも活発さがみられない。
	その他飲食［居酒屋］（店長）	来客数の動き	・新年のあいさつ等が例年になく少なく、客の入りも前年比70%程度と驚くほど少なかった。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・スマトラ沖地震の津波により、新婚旅行、学生旅行に影響が出ている。韓国等のアジアやグアム等、どちらかといえば低単価のものに振り替えられることが多い。
	旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・個人観光旅行は前年を下回っているが、寒波の影響で北海道旅行が増えてきた。しかし、関東の大型テーマパークへの旅行が低調なほか、受験生旅行も前年実績を大幅に下回っている。ただし、ビジネス旅行は堅調に伸びているため、総合すると若干前年を上回っている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・以前にも増して空車時間が長くなった。また、ワンコインバスという高齢者用のバスができたので、日中の高齢者の利用回数が減り、待ち時間が長くなった。
	通信会社（管理担当）	販売量の動き	・仕事自体は多いが、過当競争のためいずれも利幅が小さいか赤字に近い。この傾向が続いている。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・年末年始の曜日配列が悪く、宿泊の伸びもいま一つである。ただしゴルフは順調に推移している。予約状況としては、２月の一部の休日は海外の旧正月やスポーツキャンプ効果が出ている日もある。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・ゴルフ場は、寒いということもあり前年比５%減となっている。単価も依然として低く推移している。
やや悪くなっている	一般小売店［青果］（店長）	それ以外	・昨年末までは高単価商品の動きが良かったが、年明けは動きが鈍くなっている。販売量が少ないにもかかわらずなかなか単価が上がらない。

		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・12月まで続いた百貨店の売上不振から一転し、１月は売上が上昇している。プロパー商品の時期が不振でバーゲン期が好調という状況からすると、景気はまだ悪いと判断できる。今年は例年以上にこの傾向が強く、景気が良いように見えるが、実情は悪い。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・まだまだ客は低価格指向が強い。特に食料品、日用雑貨で顕著に表れている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・通勤通学時の客数は結構あるが、小遣いをあまり持っていないのか、安いものに手が行く。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・宝飾品の販売単価が前年比10%下がった。特に輸入時計の販売個数が半減している。呉服商品の販売数は同10%増と伸びているが、単価が下がっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・高級機種や付加価値の高い物が比較的によく売れてはいるが、販売数が少ないため、全体の売上が伸びない。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・客は正月にたくさん金を使い過ぎたようで、かなり売上が落ちている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・正月の売上は、雨のせいかもしれないがあまり出足が良くなかった。客の店選びも非常に厳しい。
		一般レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・正月の営業では、前年に比べ団体客、家族連れ共に減っている。
		スナック（経営者）	単価の動き	・客は会社の経費があまり使えず個人払いとなるため、値引き交渉することが多い。また売掛の支払が、新年度の４月以降にずれ込む客等もいる。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・客の価格交渉が非常に大きくなっているほか、同業他社の空室も目立つ。
		タクシー運転手	来客数の動き	・買物等で歓楽街に来る客が減っている。飲食店のママさんの話では、前年に比べ売上が半分から３分の１に減ったということである。
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・来店者数が増えても、購買にはなかなかつながらない。購買数がすごく下がっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品競争店が出て、近くの店も対抗してきた。また100円均一、ドラッグストア等も同時に開店し、客数減、販売点数減が一時的に出ている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・競合店の出店による来客数の減少は今までもあったが、ここ１か月は消費の冷え込み、客単価の低下がみられる。客は無駄なものは一切買わず、客単価の低下が顕著である。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・客数、客単価とも下がり、人の動きも静かである。寒いため人も出てこない。子どもたちほとんど家にこもっているようだ。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は過去にない数字の悪さであった。一番売上を稼ぐ量販店向けが前年比89%、コンビニエンスストア向けが同93.4%、ローカルスーパー向けは同111.6%となった。弁当は同66.5%と大幅に下落している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・全く客の来ない年末らしくない年末商戦であったが、年が明けてもその傾向は全く変わらない。相変わらず客が寄り付かない日々が続いている。時期的に冬物一掃セールをかけているが、全く期待できない。
企業動向関連	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年間売上の各月平均を100とした指数でみると、例年１月は75程度だが、今年は110となった。特に高額商品が動いた。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今までになかった新しい製品の受注が、少し増えている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・一部上場企業の大手建設業者が、地元でも活発に受注活動を続けている。当社はその下請として受注できる見通しがついてきた。
	変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係の動きとしては、消費者はまだ安価なものを選ぶため、厳しい状況である。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・年明け以降、出荷数量はやや減少気味であるが、販売価格はほぼ例年並みである。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・昨年10月ごろから受注量は減少気味である。好景気を維持しているのは、自動車業界等、特定業界のみである。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・製造業、小売業において、販売先の受注量、売上が前年より若干落ちている。

		経営コンサルタント	それ以外	・仕事の内容としては、コスト削減やリストラ絡みのものが相変わらず多い。
	やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	競争相手の様子	・今月消費者向けの地元での展示会があったが、なかなか動向がつかめず受注も低調に終わった。新春の消費地での問屋の見本市も芳しくなく、メーカーの手持ちの受注も減っており、先が思いやられる。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・以前は月初、月末に集中する等、物流の動きに波があったが、今はそういったことがなく少ない状態で推移している。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・法人融資に加え、個人融資も伸びが鈍化してきた。
		その他サービス業［物品リース］（役員）	取引先の様子	・取引先の資金繰りの悪化から、延滞や民事再生法への移行が出始めており、貸倒れ、引当金の積増も出ている。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連では、リードフレームは全国的に在庫調整に入っており、動きが鈍い状況で推移している。特に年明けは悪い。また機械加工についても、装置関連の機械部品並びに自動車関連の製品等、全般的に悪くなっている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・すべての酒類量販店において焼酎の売上が前年比95%くらいで推移している。
雇用関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が格段多くなっているわけではないが、高い能力を求める企業に対応できるスタッフが少なくなっており、どこの企業も良い人が雇用できない状況にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・福岡都市圏では、求人情報誌に掲載されている求人件数が前年比20%も伸びている。アルバイト・パート求人、アウトソーシングなどでの雇用が伸びているからである。
	変わらない	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・年が明けても求人内容に変化はみられない。人材派遣、業務請負業の求人は変わらず根強く、正社員の募集に関しては看護士、理美容師、技術者等の有資格者の募集が安定している。事務系の正社員の中途採用はほとんどみられない。
		職業安定所（職員）	それ以外	・全体としては新規求人数は伸びている。造船関連は高操業が続き求人も伸びているが、卸・小売業、飲食店の求人が減少傾向で元気がない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は堅調に推移し、有効求人倍率は改善しているものの、新規求人数に占める派遣、請負の求人の割合が52.6%を占めた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は減少しているものの、前年に比べ求人件数は横ばいである。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求人は増加傾向が続いているが、業務請負業等からの督促が増える等、採用者数の動きに変化もみられる。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・秋以降、オーダーの件数が落ち着いている。また、長期雇用が前年比10%程度減少している。
	悪くなっている	－	－	－